

県北広域振興圏の 人口減少をとりまく現状

令和5年6月 県北広域振興局

目次

★ 岩手県民計画(2019~2028)第2期アクションプラン	-----	1
★ データが示す地域の状況	-----	2
★ 人口減少を取り巻く地域の状況	-----	19

《参考資料》

1-1 人口推移	-----	3
1-2 人口ピラミッド(15年前/現在/15年後)	-----	4
2-1 自然増減の推移	-----	5
2-2 出生数の推移	-----	6
2-3 婚姻数の推移	-----	7
2-4 婚姻時の平均年齢	-----	8
2-5 出生時の母の年齢階級	-----	9
2-6 年齢階級別配偶関係(男女別)	-----	10
3-1 社会増減の推移	-----	11
3-2 転入者数	-----	12
3-3 転入者の年齢階級	-----	13
3-4 転出者数	-----	14
3-5 転出者の年齢階級	-----	15
3-6 上位転出先	-----	16
3-7 県内外への転入出超過	-----	17
3-8 転出超過の上位転出先(県外)	-----	18
4-1 人口減少を取り巻く地域の状況についての発言(令和3年度)	-----	20
4-2 人口減少を取り巻く地域の状況についての発言(令和4年度)	-----	21

人口減少対策を最優先に 4つの重点事項に取り組みます

★ 自然減・社会減対策

★ DX※の推進

★ GX※の推進

★ 安心・安全な地域づくり

※ DX(デジタル・トランスフォーメーション)

ICT(情報通信技術)の浸透により、生活をよりよい方向に変化させること。

※ GX(グリーン・トランスフォーメーション)

化石燃料中心の経済や社会、産業構造をクリーンエネルギー中心にしていくこと。

人口動態データ等より

★ **生産人口の減少**、老齢人口の増加

★ **出生数の急激な減少**

(婚姻年齢・出産年齢の上昇)

★ **転出超過**

《県北地域の傾向》

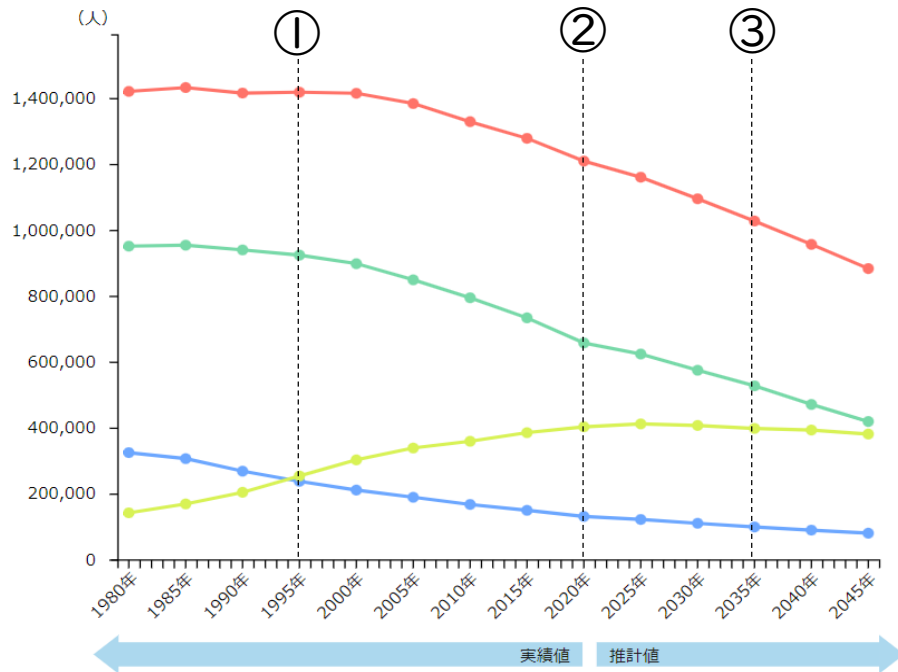
- ・県全体よりも早く老齢人口が生産人口を超える予測
- ・男性(30~64歳)の未婚率が県全体と比べて高い
- ・異動先には、県央地域、青森県三八地域が多く選ばれる

★ 生産年齢人口及び年少人口の減少により、総人口は減少し続けている。

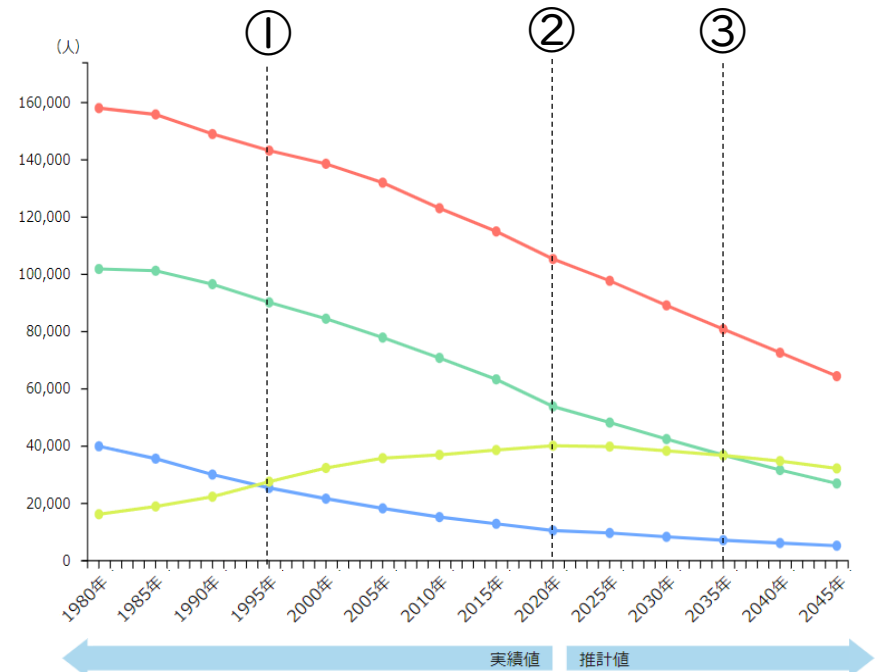
《データが示す主な県北地域の傾向》

- ① 1995年 高齢人口が年少人口を超過した
- ② 2020年 県北圏域の生産年齢人口減少が著しい
- ③ 2035年 県北圏域で高齢人口が生産年齢人口を超過する予測

《県全体》



《県北圏域》



● 総人口 ● 年少人口 ● 生産年齢人口 ● 老年人口

出典: RESAS人口マップ

1-2 人口ピラミッド(15年前/現在/15年後)

★ 生産年齢人口及び年少人口の比率が低下し続け、つば型で推移する。

《データが示す主な県北地域の傾向》

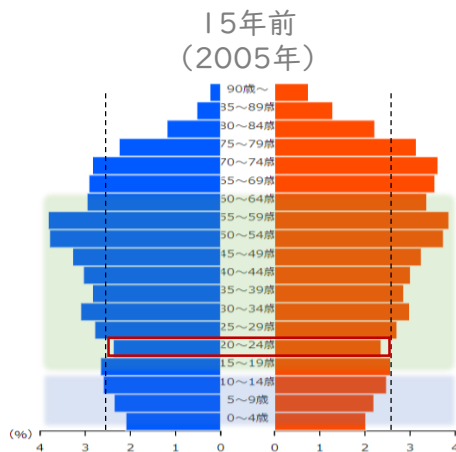
- ・ 県北圏域の20～24歳の人口構成比が著しく低い
- ・ 生産年齢人口及び年少人口の構成比が県全体よりも急激に低下する予測

県全体

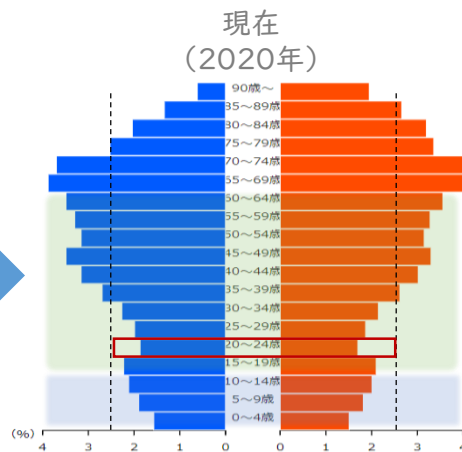
県全体

県北圏域

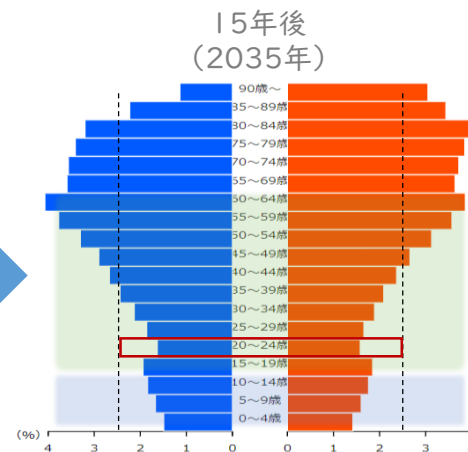
県北圏域



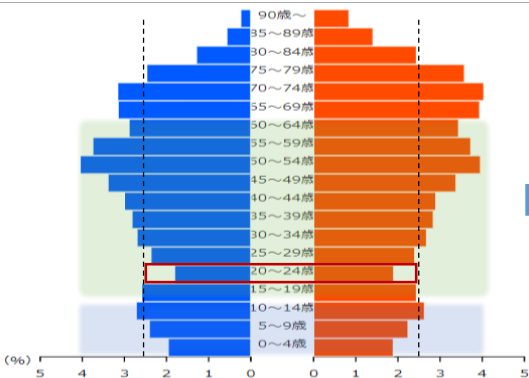
15年前 (2005年)
 老年人口 (65歳以上) : 339,957人 (24.54%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 850,253人 (61.39%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 190,578人 (13.76%)



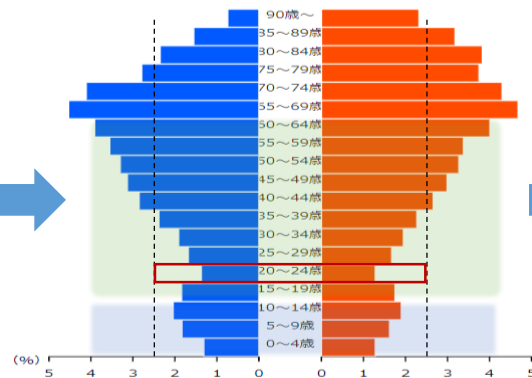
現在 (2020年)
 老年人口 (65歳以上) : 404,359人 (33.4%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 658,816人 (54.42%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 132,447人 (10.94%)



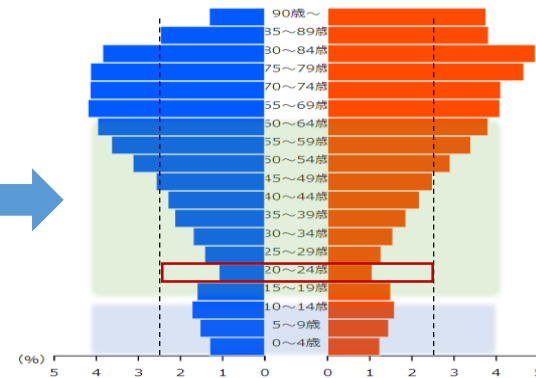
15年後 (2035年)
 老年人口 (65歳以上) : 399,479人 (38.83%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 528,635人 (51.39%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 100,559人 (9.78%)



県北圏域 (2005年)
 老年人口 (65歳以上) : 35,819人 (27.13%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 77,938人 (59.03%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 18,280人 (13.84%)



県北圏域 (2020年)
 老年人口 (65歳以上) : 40,149人 (38.11%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 53,899人 (51.16%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 10,514人 (9.98%)



県北圏域 (2035年)
 老年人口 (65歳以上) : 36,795人 (45.51%)
 生産年齢人口 (15歳～64歳) : 36,896人 (45.63%)
 年少人口 (0歳～14歳) : 7,162人 (8.86%)

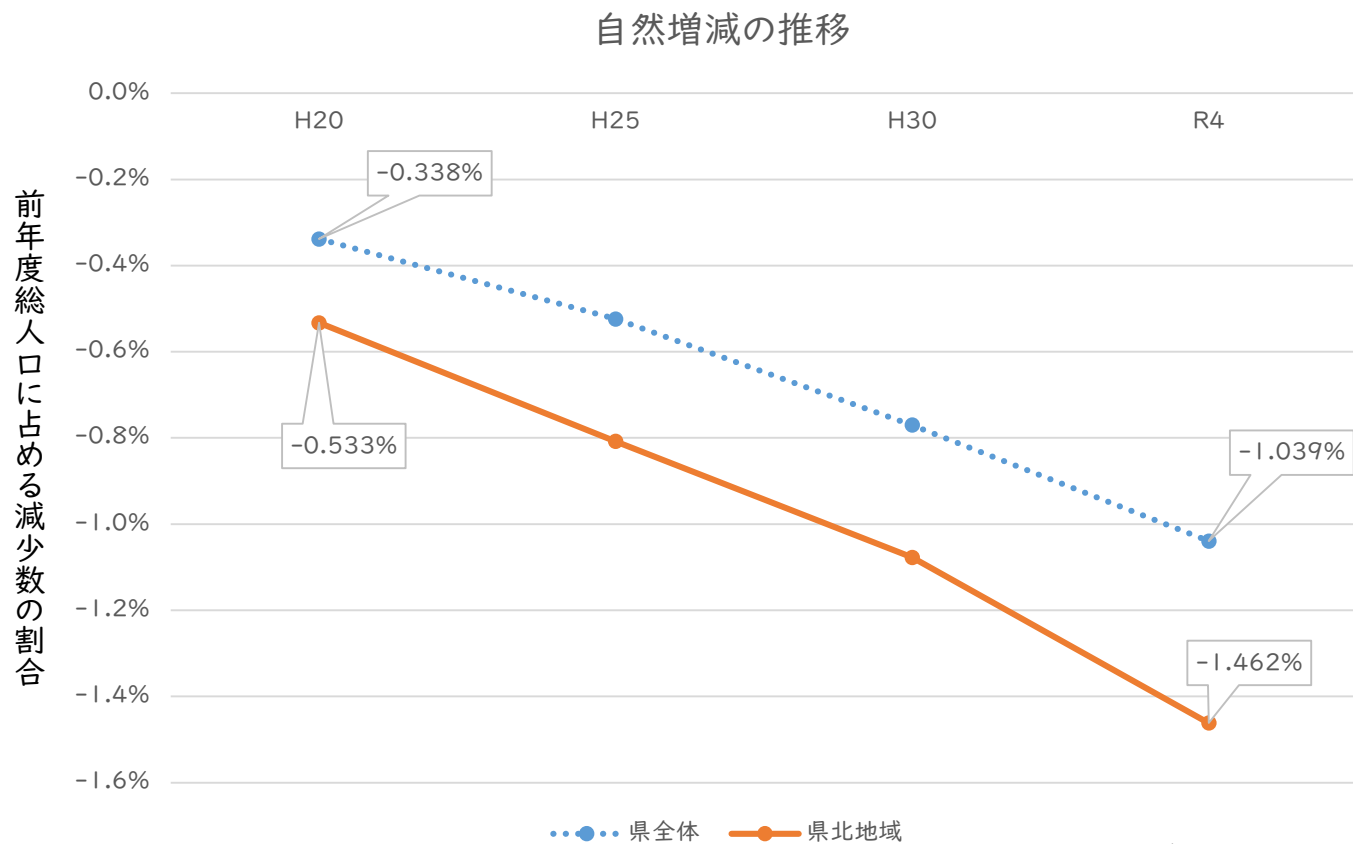
■ 男性 ■ 女性 ※ 破線=2.6%(全体100%÷2(男女)÷19階級=2.63...%)

出典: RESAS人口マップ

★ 自然増減は**減少**で推移し、総人口に占める**自然減**は**増え続けている**。

《データが示す主な県北地域の傾向》

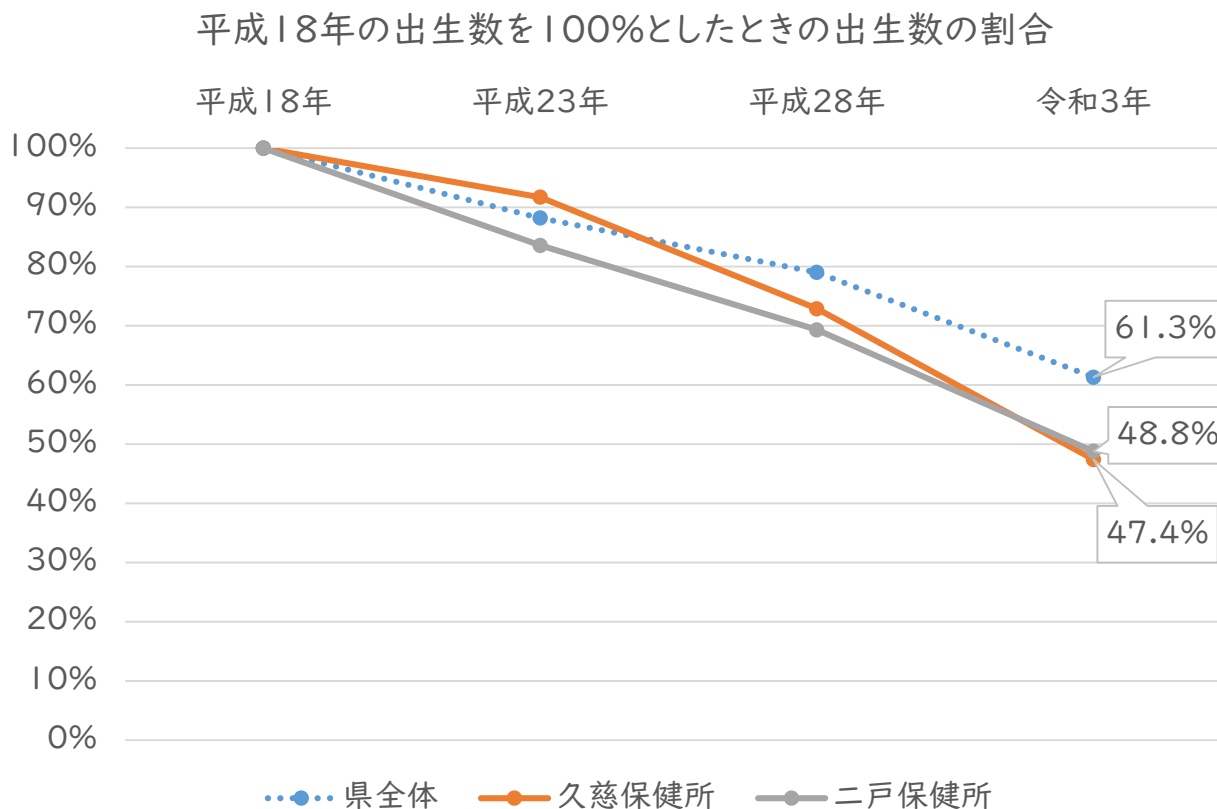
- ・ 総人口に占める**減少数**の割合は、県全体よりも0.2~0.4%程度**高く、増え続けている**。
- ・ 約15年前は自然減より社会減の方が割合が大きかった。
- ・ 現在は、社会減よりも**自然減**の方が**総人口に占める割合が大きくなっている**。



★ 出生数は減少し続け、15年前と比べて大幅に減っている。

《データが示す主な県北地域の傾向》

- ・県北地域の出生数は、15年前と比べ半減している。
(久慈地域、二戸地域ともに、県全体と比べ出生数の減少割合が高い。)



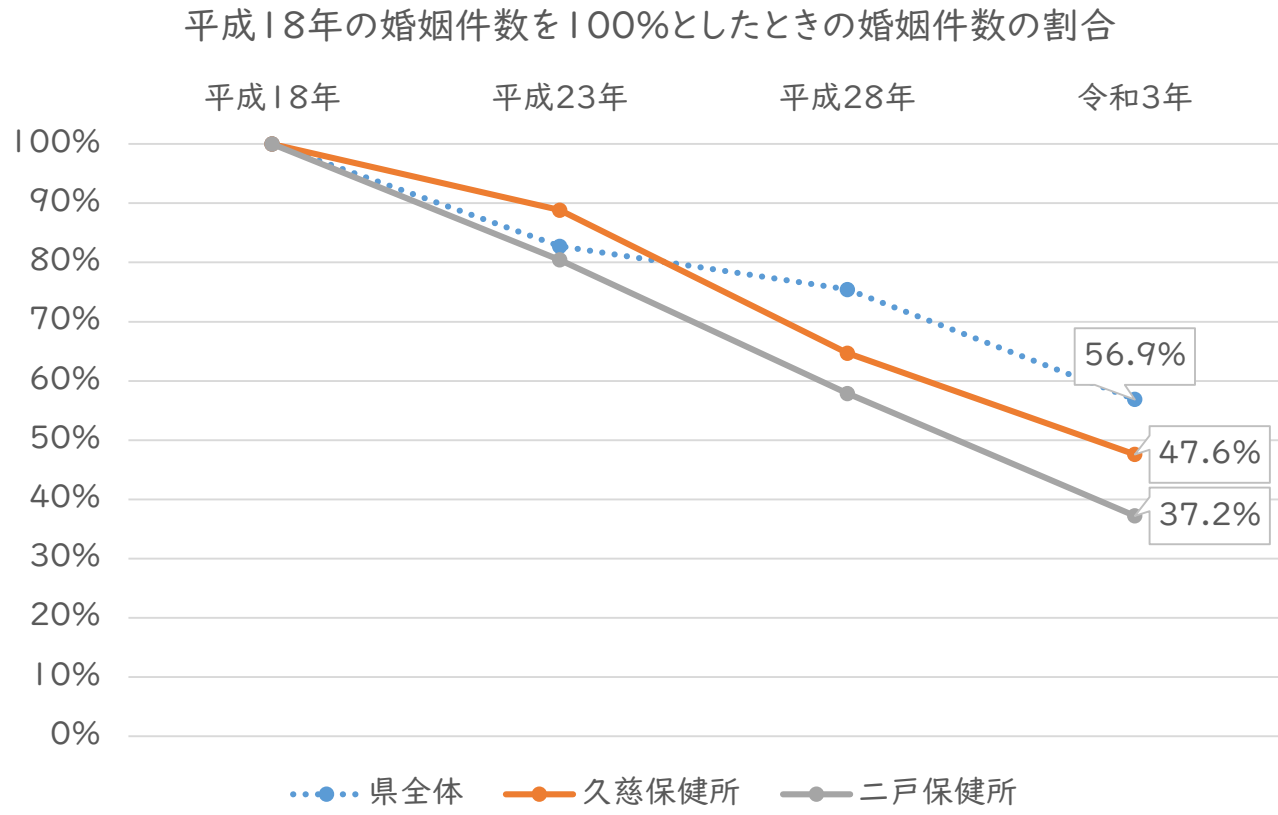
資料:岩手県保健福祉年報(人口動態編)

2-3 婚姻数の推移

★ 婚姻数は減少し続け、15年前の半数程度にまで減っている。

《データが示す主な県北地域の傾向》

・県北地域の婚姻数は、15年前の半数以下となっている。
(久慈地域、二戸地域ともに、県全体と比べ婚姻数の減少割合が高い。)



資料:岩手県保健福祉年報(人口動態編)

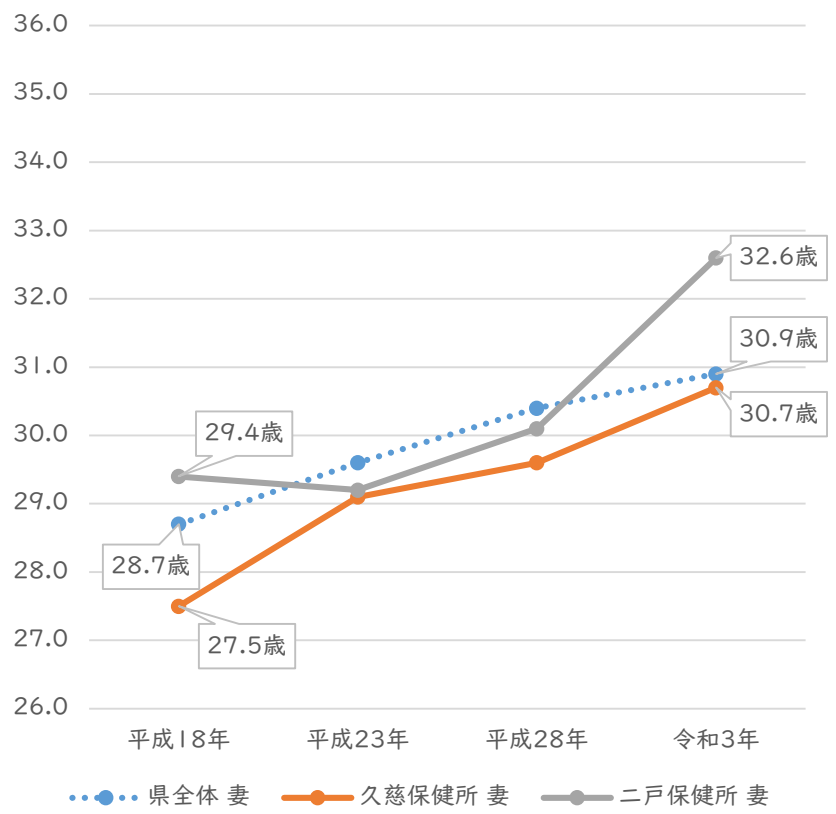
2-4 婚姻時の平均年齢

★ 男女ともに**婚姻時の平均年齢が1~3歳程度上昇**している。

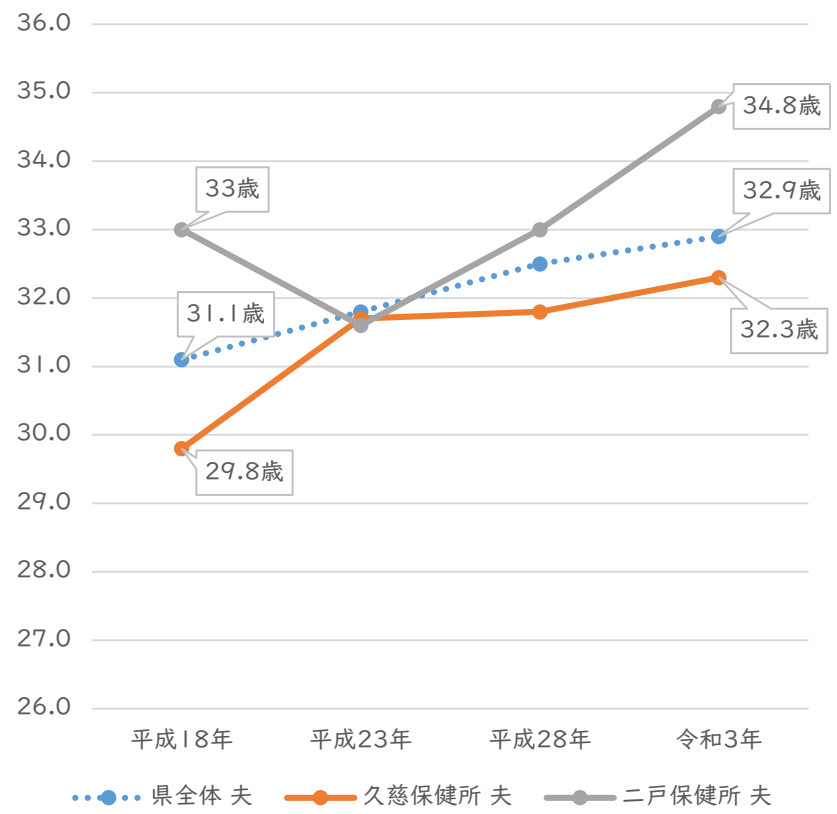
《データが示す主な県北地域の傾向》

調査年によって変動があるものの、**おおむね県平均と類似する形で上昇**している。

婚姻時の妻の平均年齢



婚姻時の夫の平均年齢



資料:岩手県保健福祉年報(人口動態編)

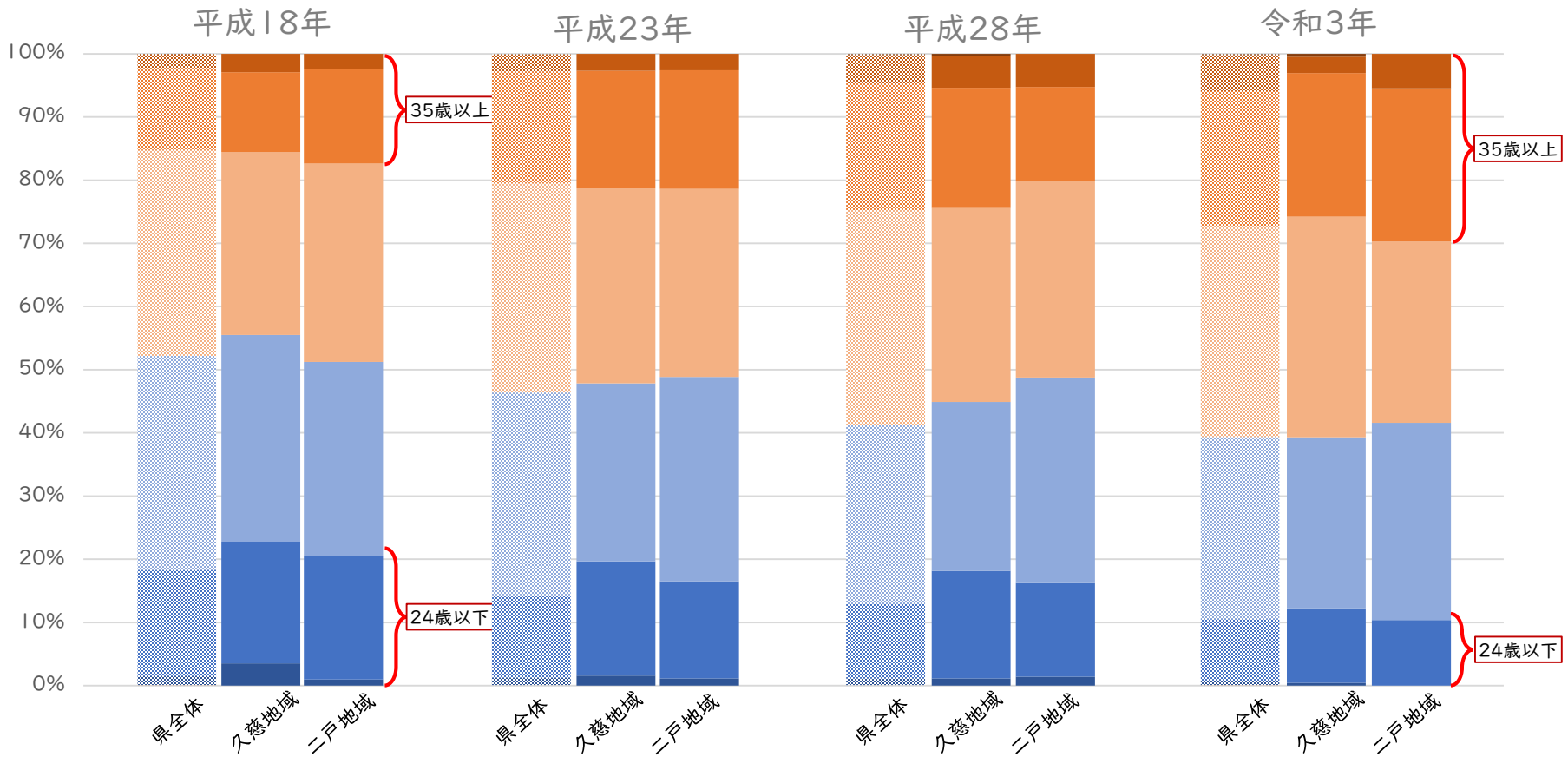
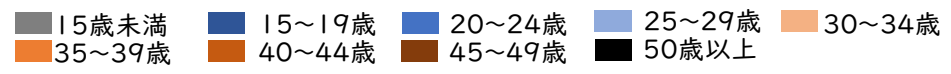
2-5 出生時の母の年齢階級

★ 24歳以下の出産が減り、35歳以上の出産が年々増えている。

《データが示す主な県北地域の傾向》

- ・ 25～34歳での出産はほぼ横ばいで推移。
- ・ 20～24歳での出産は県全体と比べやや高かったが、近年はあまり差異がない。

出産時の母の年齢階級構成



資料：岩手県保健福祉年報（人口動態編）

2-6 年齢階級別配偶関係（男女別）

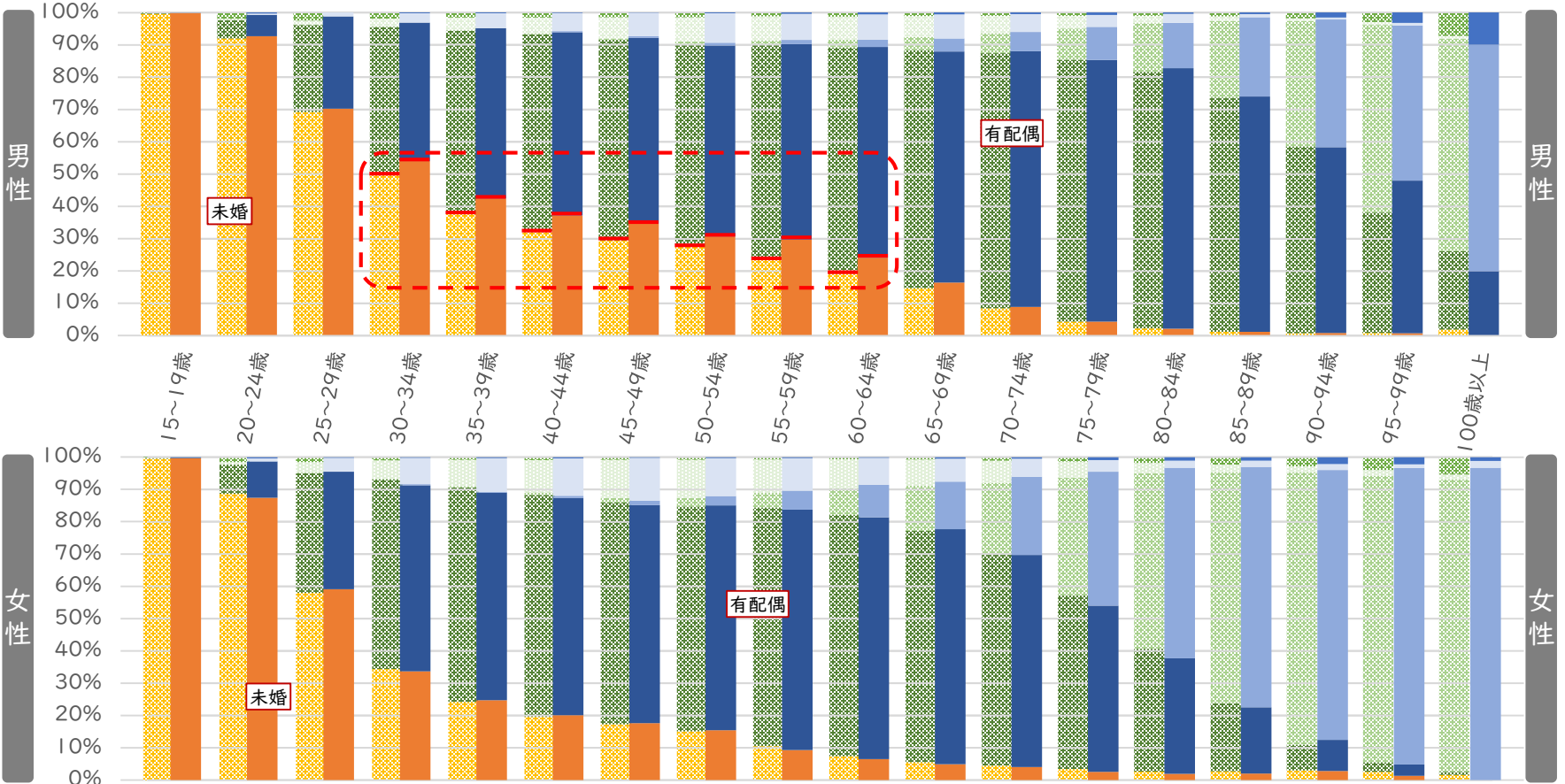
★ **男性の未婚者の割合がより高い。**（特に生産年齢人口）

《データが示す主な県北地域の傾向》

- ・女性の未婚者の割合は、**県全体と比べて目立った差異はない。**
- ・**男性の未婚者の割合は、30～64歳の各年齢階級で県全体より5%程度高い。**

年齢階級別配偶関係（2020年）

《県全体》 未婚 有配偶 死別 離別 不詳
 《県北圏域》 未婚 有配偶 死別 離別 不詳



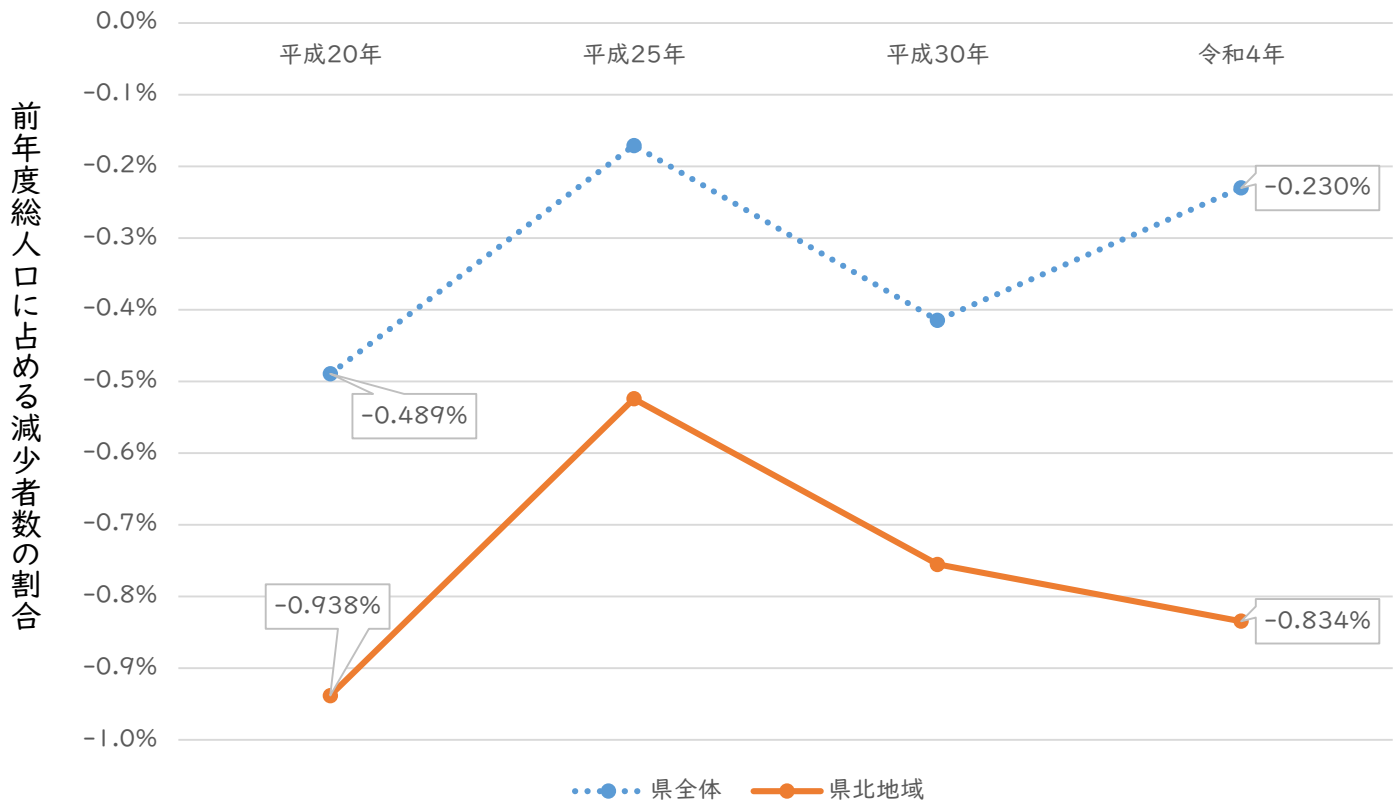
資料：令和2年国勢調査

★ 社会増減は、**減少**で推移し続けている。(減少幅は、年によってばらつきがある。)

《データが示す主な県北地域の傾向》

- ・ 総人口に占める**減少数の割合**は、県全体よりも0.3~0.6%程度**高**くなっている。
- ・ 総人口比社会減の割合は、**約15年前**と比べて**大きな差はない**。

社会増減の推移

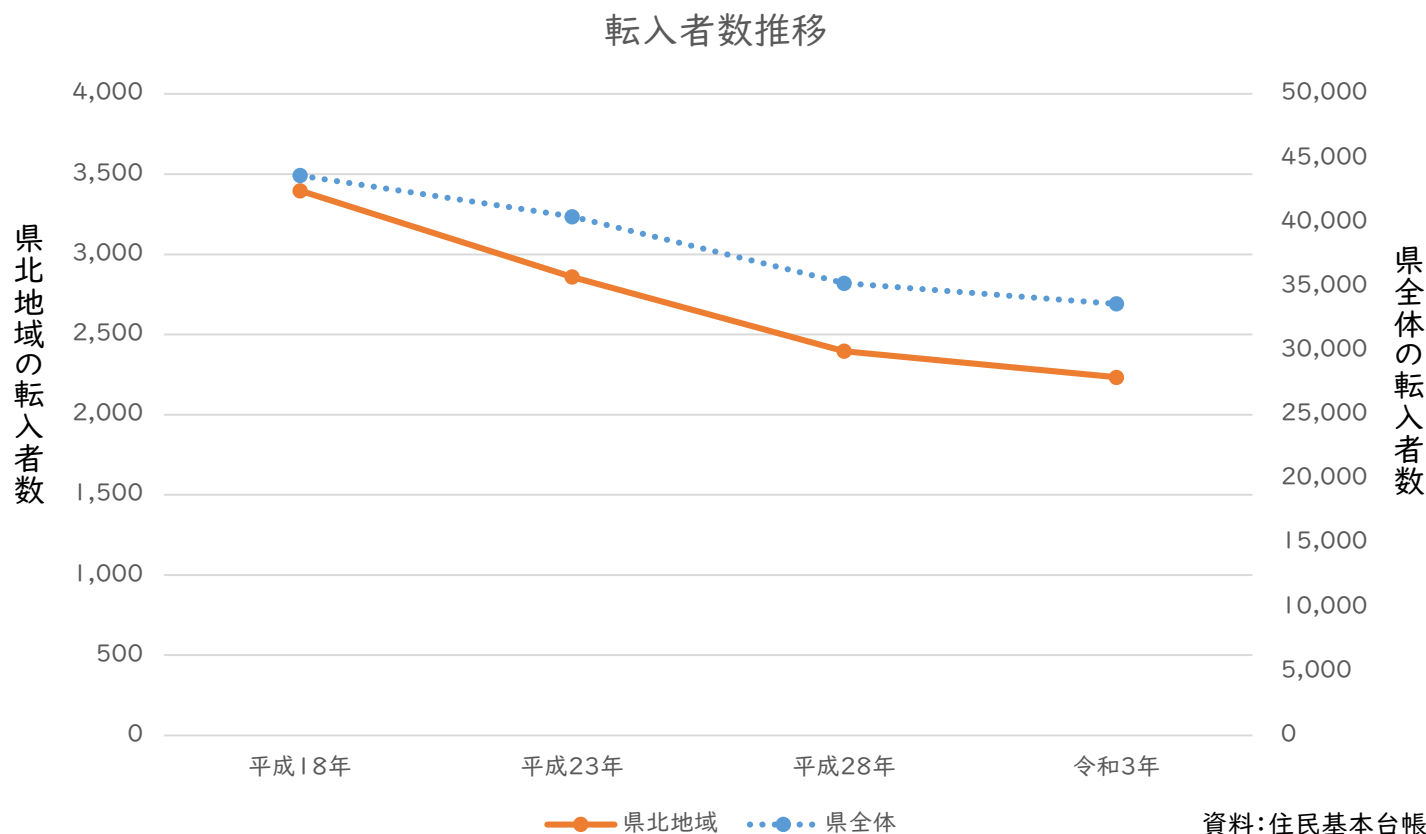


資料:いわて統計白書

★ 転入者は緩やかに減少している。

《データが示す主な県北地域の傾向》

- ・ 転入者数は減り続けている。
- ・ 近年の減少幅は緩やかになっている。



資料:住民基本台帳人口移動報告

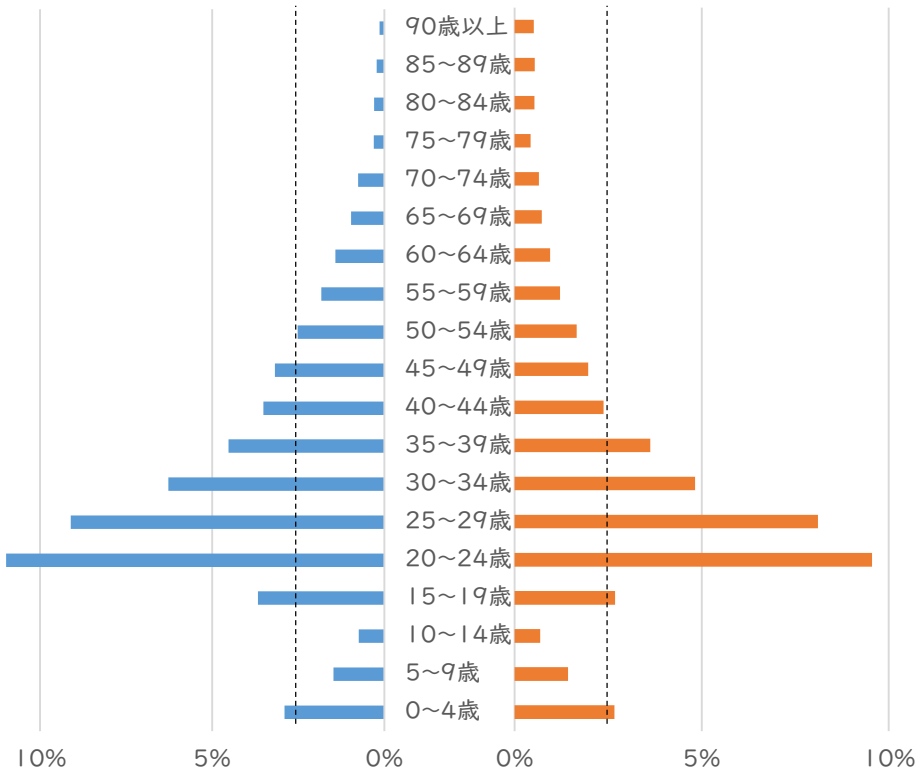
3-3 転入者の年齢階級

★ 20代の転入者の割合が最も高い。

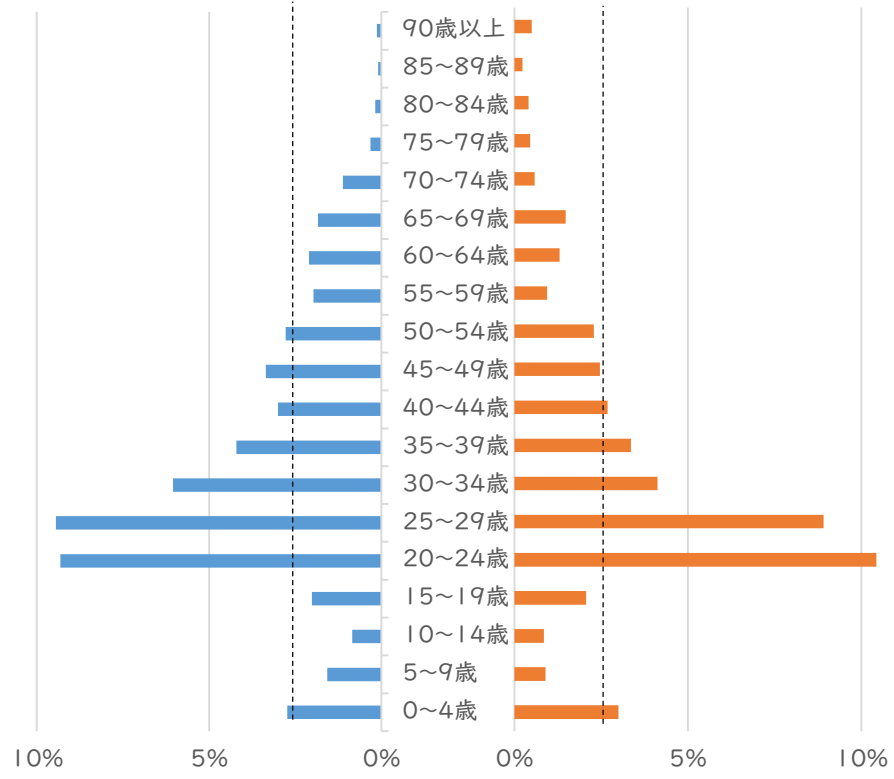
《データが示す主な県北地域の傾向》

- ・ 県全体と比べ、20代女性の転入割合が高い一方、男性の転入割合は低い。
- ・ 50代~60代の転入割合が県全体と比べてやや高い。

令和3年転入総人口に占める年齢階級別の割合
《県全体》



《県北圏域》



■ 男性 ■ 女性

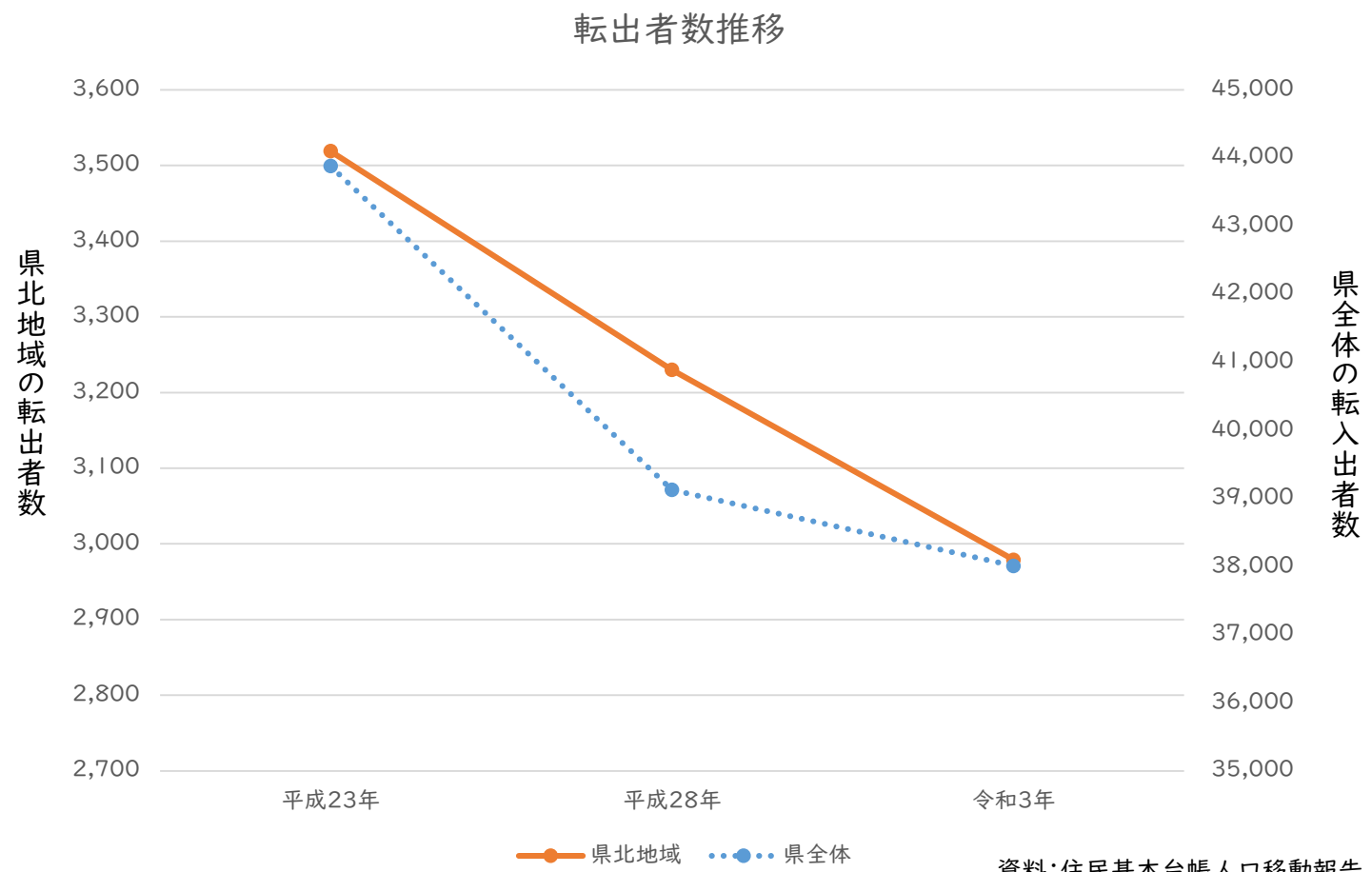
※ 破線=2.6%(全体100%÷2(男女)÷19階級=2.63...%)

資料:住民基本台帳人口移動報告

★ **転出超過**である一方で、**転出者数**は**減少**し続けている。

《データが示す主な県北地域の傾向》

- ・近年県北地域の転出者数の**減少は緩やか**になっている。



3-5 転出者の年齢階級

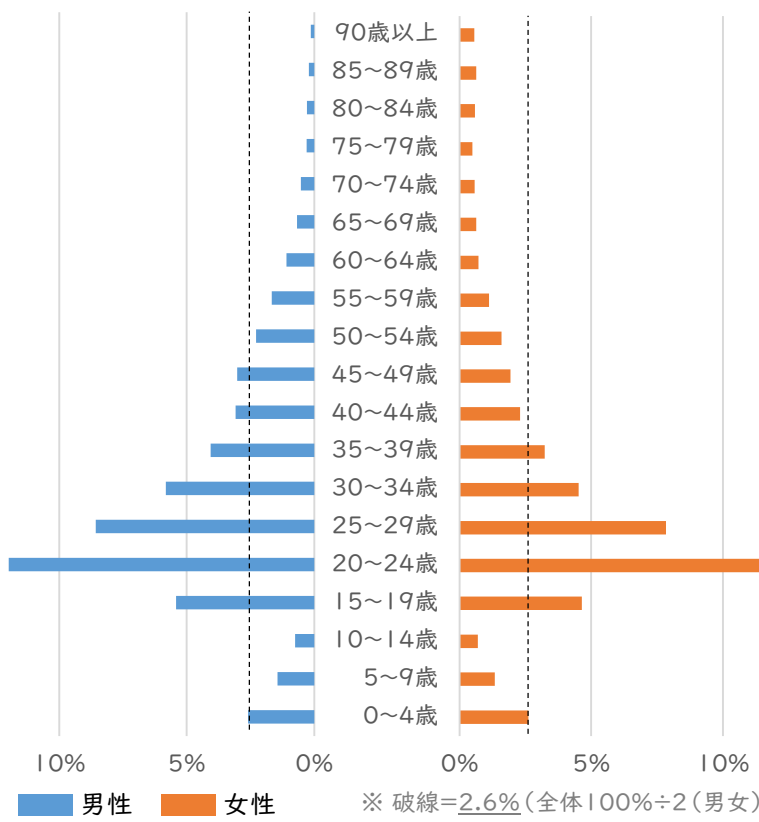
★ 20～24歳の転出が最も多く、20代での転出が4割以上を占める。

《データが示す主な県北地域の傾向》

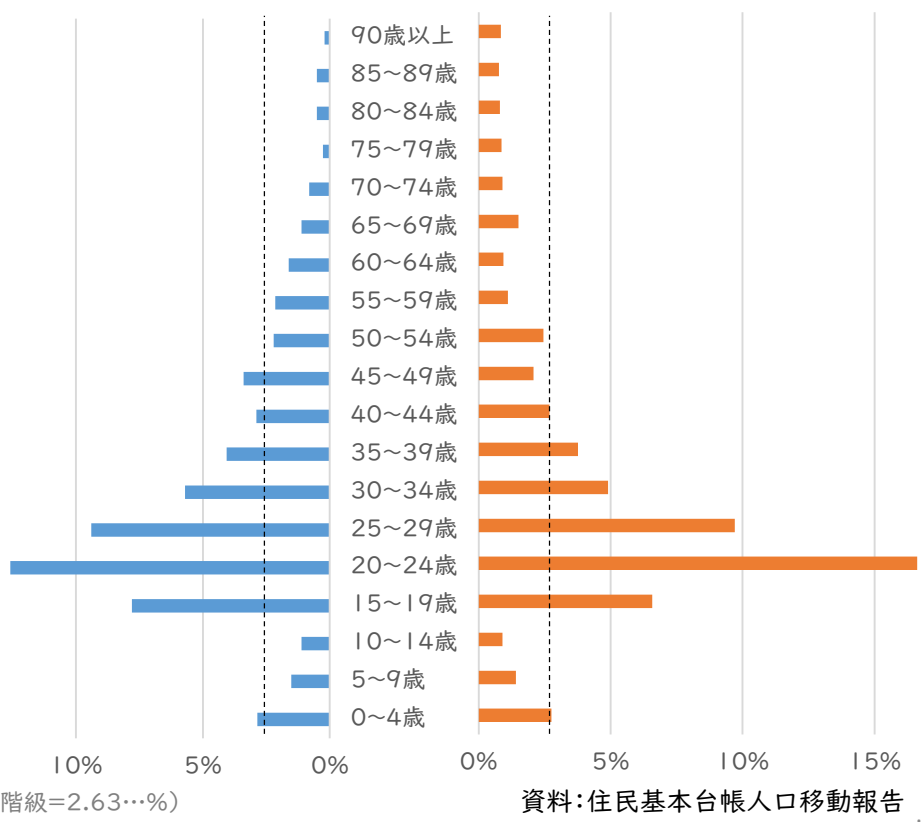
- ・ **女性**の転出割合が県全体より**高く**、特に**20代女性**で高い。
- ・ 県北圏域では**20代**での転出割合が**約半数**。
- ・ 県全体と比べ、**15～19歳**の転出割合が高め。

令和3年転出総人口に占める年齢階級別の割合

《県全体》



《県北圏域》



※ 破線=2.6% (全体100%÷2(男女)÷19階級=2.63...%)

資料:住民基本台帳人口移動報告

3-6 上位転出先

★ 県内全体でみると、東京圏、宮城県、青森県への転出が多い。

《データが示す主な県北地域の傾向》

・ 近隣地域、特に青森県三八地域と県内県央地域への転出者が多い。

令和3年度の主な転出先

自治体	転出先(10名以上の転出がある自治体又は上位10自治体)・転出者数に占める割合									
久慈市	盛岡市 18.0%	八戸市 6.4%	仙台市 5.8%	滝沢市 3.8%	北上市 2.5%	宮古市 2.3%	洋野町 2.1%	矢巾町 1.7%	奥州市 1.7%	横浜市 1.5%
普代村	久慈市 33.3%									
野田村	盛岡市 15.7%	久慈市 10.5%								
洋野町	八戸市 25.3%	盛岡市 8.6%	久慈市 6.2%	仙台市 5.9%	階上町 4.1%					
二戸市	盛岡市 22.5%	仙台市 4.4%	八戸市 3.7%	滝沢市 3.5%	奥州市 3.5%	九戸村 3.4%	一関市 2.9%	北上市 2.1%	久慈市 1.9%	三戸町 1.9%
軽米町	八戸市 16.4%	二戸市 10.5%	盛岡市 9.5%	仙台市 7.3%						
九戸村	盛岡市 12.7%	仙台市 7.9%	八戸市 7.9%							
一戸町	盛岡市 22.1%	二戸市 18.7%	滝沢市 8.0%	岩手町 4.7%						
盛岡市	仙台市 10.8%	滝沢市 7.2%	紫波町 4.6%	北上市 3.4%	花巻市 3.1%	矢巾町 3.0%	横浜市 2.1%	奥州市 2.1%	秋田市 2.0%	一関市 1.9%
岩手県	宮城県 22.5%	東京都 15.2%	青森県 7.8%	神奈川県 7.2%	埼玉県 6.4%	千葉県 5.2%	北海道 4.8%	秋田県 4.6%	福島県 3.3%	山形県 2.4%

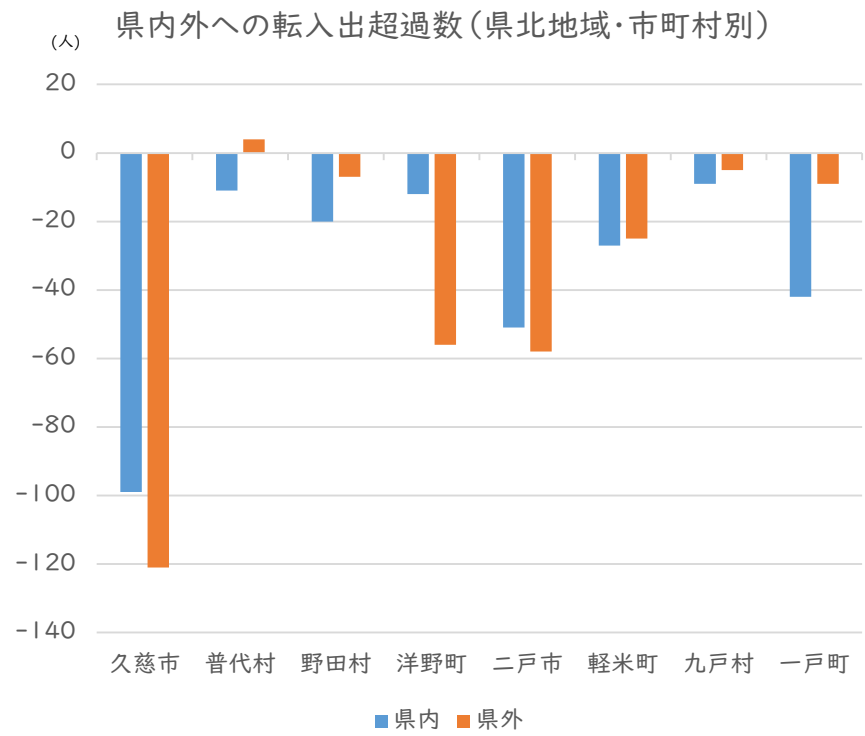
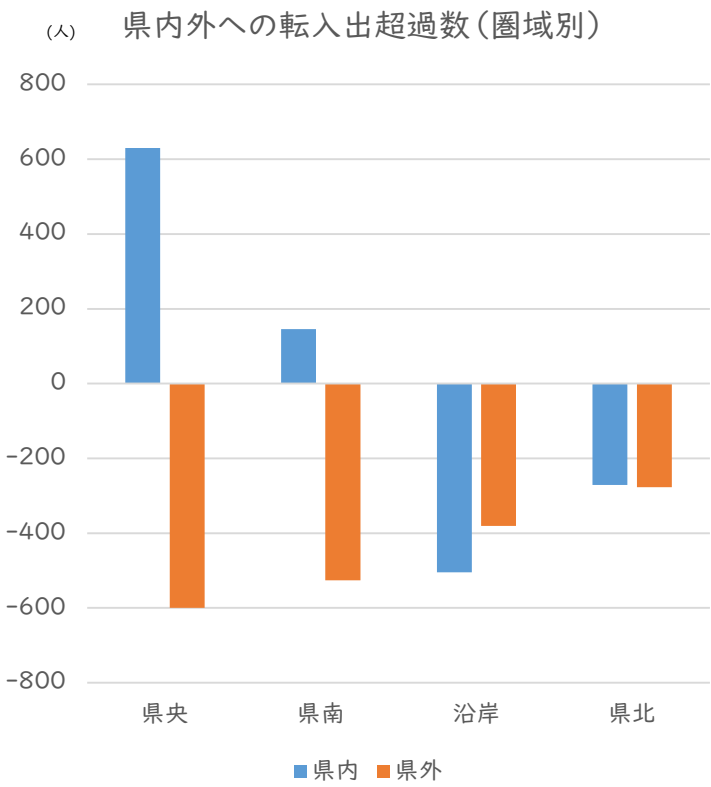
資料:RESAS人口マップ

3-7 県内外への転入出超過

★ 県内全体で**転出超過傾向**となっている。

《データが示す主な県北地域の傾向》

- ・ 県北管内**全ての市町村**で**県内**への**転出超過**が見られる。
- ・ **県内**への**転出超過数**は**県外**への**転出超過数**とほとんど変わらない。



資料:令和3年度 岩手県人口移動報告年報

3-8 転出超過の上位転出先(県外)

★ 県内全体の転出超過は、主に東京圏、宮城県。

《データが示す主な県北地域の傾向》

・ 県北地域の転出超過は、主に青森県、宮城県、東京圏。

転出超過となった主な転出先(上位5位まで)

自治体	転出超過数内訳(上位)					
久慈市	宮城県 48人	東京都 44人	青森県 27人	北海道 25人	埼玉県 18人	
普代村	東京都 3人	北海道 1人	宮城県 1人	山形県 1人	群馬県 1人	埼玉県 1人
野田村	宮城県 5人	埼玉県 4人	国外 4人	青森県 2人	福島県 2人	
洋野町	青森県 58人	宮城県 19人	千葉県 11人	神奈川県 11人	北海道 6人	
二戸市	青森県 35人	神奈川県 12人	宮城県 10人	埼玉県 9人	北海道 4人	群馬県 4人 国外 4人
軽米町	青森県 28人	宮城県 14人	東京都 3人	福島県 2人	山形県、茨城県、栃木県ほか計13府県、国外1名	
九戸村	宮城県 6人	千葉県 5人	青森県 3人	埼玉県 3人	群馬県 2人	
一戸町	神奈川県 9人	宮城県 7人	埼玉県 5人	北海道 4人	千葉県 4人	
県北合計	青森県 147人	宮城県 110人	東京都 51人	千葉県 39人	埼玉県 24人	
岩手県	宮城県 991人	東京都 867人	神奈川県 355人	埼玉県 286人	千葉県 215人	

資料:令和3年岩手県人口移動報告年報

これまでの会議より

- ★ 一次産業、現場労働を始めとした
深刻な人材不足
- ★ 地域に子ども、親となる若者世代が
いない
- ★ 「地元で働きたい」
U・Iターンしたい人の存在

《令和3年度第1回》

- 福祉の仕事でも、人材確保がとても難しい問題になっている。地元の福祉養成校の卒業生が4~5人しかいない状況で、新卒者が来てくれるか心配している。「勉強して帰ってくる」と言った若い人が実際に帰ってこないケースも多い。周囲からは「この地域には働く場も学ぶ場もないので、どうしても子どもを外に出さざるを得ず、子どもも帰ってきたくても帰ってこれない」「子どもを産んで育てるとなると…」という意見が聞かれる。
- 介護の業界で働きたいという人が少なくなってきており、先進的な取組をしても人材確保が難しく、高齢者の働きやすい職場づくりをして高齢者に働いてもらっている。人口減少に直面しているのは郡部の方が早い印象。
- 全国的に人口減少が進む中、おそらく全国で同じような取組をしているので、その中で岩手県が突出して人口減少を止められるような感じにはちょっと見えない。

《令和3年度第2回》

- 漁業女性部は8年間で部員数が30人減少した。高齢化で留めるのはなかなか難しく、新しい人を加入させようと思っても加入してくれる人が見つからない。
- 若者、特に女性は、大学に行ってそのままとどまる人が多いと思うが、進学せず地元で就職しても、入社1~2年くらい経つと急に何かチャレンジするため都会に行きたがるということが結構ある。若い人は辞める回転数が早い一方で、最近40代くらいの特に男性が、親世代を看るために東京から地元に戻ってきて、地元で職を探すということが見られるようになった。
- 雇用側としては、現場労働をしてくれる人が欲しい。この地域には圧倒的にそういう仕事が多く、これから人材が不足していこうと思う。一方、外に出ていく人たちは、現場労働ではなく、管理をしたり、独立してやりたいという考えの人が多いかもかもしれない。そのマッチングのずれが大きくあるのではないかと思う。

《令和4年度第1回》

- **子どもがいないのではなく、親がいない**ことに危機感を抱いている。親がいないので、子どもがいない、世帯がない。ここ数年本当に減っていると感じる。
- 10年前は約70軒あった酪農家が、現在は40軒を切りそう。**お婿さんが来る家は結構あるが、外との交流、新しい出会いがなくお嫁さんが来てくれる家が少ない**ので、これから減る農家も結構いると予想している。
- 木炭生産は第一次産業の一つでどうしても個人でやっている方が多く、**高齢化と後継者問題**がある。現在約100名いる**県内の木炭の生産者は、平均年齢がおそらく70歳を超えている**ので、ここ10年程度で一気に生産者数が減っていくと予想される。すると**当然ながら生産数も減っていく**。
- 仕事があっても**人がいなくて全然生産できない**という声を聴く。外国人研修生制度もあるが、**今日本にきたい人が少なくなっている**現状。コロナ・円安の影響もあり、3割以上目減りしている。
- コロナ禍で**変わってないところは、人手不足**。募集してもなかなか来ない。
- 福祉分野では、サービス自体は充実しているが、サービスを提供する側の人材不足は本当に深刻。利用者には高い質を求められるが、**福祉分野を勉強した人が残っておらず人材がいないので、未経験者歓迎という状況で、質の高いサービスを提供していくため、各事業所等で努力をしていかなければならず、苦しい**。
- 東京から地方移住が進んでいるというデータもあったが、実感できていない。
- 発電所はものすごく採用をできているが、**処理工場等は非常に人材不足で苦勞している**。若い人は再エネに関して興味を持っているが、**受け皿が少なく、沿岸や県南の方に就職される方が多い**と聞いている。

《令和4年度第2回》

- 子どもに聞くと、**やっぱり地元で働きたいという子は多い**気がしている。
- **移住して来てくれる方も最近増えてきているが、子どもが本当に減っている**と肌身に感じる。
- 「人口減少」「所得格差」は、**日本全国どこでも同じように直面している**問題。
- 人口減で仕事をしていくには、いろいろな方に来てもらって仕事をしなければならないところ、**今外国人研修生が来ている**。彼らは長くて5～10年だが、きちっと仕事をつなげていくには必要な人材。